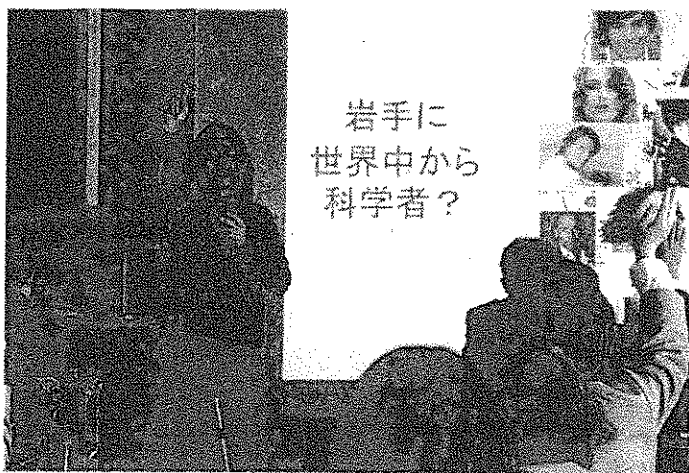




宇宙へ高まる関心 大槌高で特別授業



岩手に
世界中から
科学者？

宇宙の仕組みやILCについて紹介する齋藤武彦教授

大槌 ドイツ・マインツ大の齋藤武彦教授(原子核ハドロ物理学)による国際リニアコライダー(ILC)特別科学授業(県ILC推進

協議会、SAVE IWA TE主催)は24日、大槌町などで始まった。

同町大槌の大槌高(五日市健校長、生徒210人)

では1年生67人が参加。同校で4回目の講演となる齋藤教授は「地球から宇宙へ、そして小さな世界へ」と題し、宇宙の成り立ちやILC誘致による地域への影響などを図で分かりやすく説明。ILC誘致について「岩手が世界をリードする時代が来る。皆さんには世界に目を向けてほしい」と語り掛けた。

阿部大輝さんは「宇宙はどんだん広がっているという話が印象に残った。ILC誘致で外国の多様な文化も取り入れられたらいいと思つ」と関心を高めた。

授業は28日まで、中学校など県内10カ所で行う。一般向けには同日午前10時から、久慈市侍浜町の久慈地下水族科学館もぐらんぴあで実施する。

大槌町小鎧 大槌高1年 石川 明弥さん

ドイツ・マインツ大の齋藤武彦教授の国際リニアコライダー(ILC)についての講演を聞いた。宇宙の仕組みなどは難しい話だったが、分かりやすい説明で楽しめた。ILCが世界でた



った1カ所、岩手にできるかもしれないと聞き、とてもすごいことだと思った。大槌や岩手はまだ復興途中だが、世界から多くの科学者が来ることで、より早く復興が進むことに期待したい。

清波てんげん

題字 山下文男さん